

コラム 神国の首都

Vol.66

「ひこにゃん」あたりから始まった「ゆるキャラブーム」が今に続いています。「くまもん」に続いて「ふなつしー」が席卷したと思えば、背丈が3メートルも伸びる「ねばーる君」が登場、テレビの露出度を競っています。最近はおしやべりや激しい動きのある「ゆるキャラ」がモテモテのようで、このブームどこまで進化(?)するのやら。

さて、松江市立第四中学校に、生徒が考案した「ゆるキャラ」がいるのをご存知でしょうか。その名も「ラルタン」。飾り気や誇張なく、ありのままに「を意味する英語NATURALのスペルを逆から読んだもので、「思いやりの花のつぼみをつけよう」と、頭に花のつぼみを付けた「ラルタン2号」も登場。卒入学式などの学校行事や地区の公民館祭で大活躍とか。生徒手作りの「ラルタン」のストラップを1個50円で販売し、生徒会の活動費などに充てているとい



ラルタンのストラップ

「ラルタン」誕生秘話

話は2年前にさかのぼります。同校に赴任した福頼敬二校長が目にしたのは、今とは真逆の光景でした。詰め込んだトイレトペーパーで毎日のように水浸しになるトイレ、廊下の掃除用具を入れるロッカーは足蹴りでボコボコ、すれ違っても素知らん顔の生徒

。紹介するのとはばかるといいます。力による管理を試みたもののモグラの頭たたき状態になり、抑え込まれた分、生徒はエネルギーを爆発させてしまう悪循環に。そこで福頼校長が思いついたのが、地域との結びつきでした。まず週に一回のトイレの花生けを保護者や地域のボランティアに頼み、生徒が花瓶を持参し、地域の大人たちとの共同の花生けへと発展させます。大人と一緒にトイレ掃除、カレーライスを食べながらの反省会、教師を司会役

にした生徒と地域の人たちとの意見交換会と矢継ぎ早の対応で、学校の雰囲気は見違えるように変わっていったとい

「しまニッコ」運動に期待

今春から、青少年育成県民会議などが提唱して「しまニッコ（スマイル声かけ）運動」が県下一斉に始まります。家庭、学校、地域、職場で、大人と子ども、大人同士、子ども同士が笑顔であいさつをし、一緒に活動をし、お互いに話をしつかり聴き、夢や希望を語り合おうという取り組みです。もう一度、基本の基本に戻りましょう、という呼びかけです。「しまニッコ」は、県観光キャラクターで2012年の「ゆるキャラグランプリ」で全国6位に入った「しまねっこ」をもじったものです。「しまニッコ」の「ゆるキャラ」がデビューし、グランプリの1位に輝く。そんな日が来てほしいものです。

(瑛)

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。

シリーズ景観 43

～『みんなで残したい松江の景観400選集』から景観審議会が特にお薦めする景観～

— No.120 美保神社 —

「本殿は大社造りの社殿が左右に2棟並んだ独特の様式で美保造りといわれ、国の重要文化財に指定されています」と推薦いただきました。

文化10(1813)年に造営された本殿の建築用材の大半は、美保関周辺に自生していた松を使い、屋根は檜皮ひわだで葺いています。御祭神は三穂津姫命みほつひめのみこと、事代主命ことしろぬしのみこと(えびす様)の二柱で、全国に3,300余りある「えびす社」の総本社です。美保神社の神様は鳴り物を好まれますとされ、古くから数多くの楽器が奉納されており、そのうち846点は重要有形民俗文化財に指定されています。



美保神社では、毎年4月に青柴垣神事、12月には諸手船神事と、国譲り神話にちなんだ古式ゆかしい神事が行われます。さわやかな5月の海風を感じながら神話ゆかりの舞台を訪ねてみてはいかがでしょうか。

「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【お問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索